

広域ヨーロッパ研究センター (WERC)

平成22年度活動報告

2011.4.28

1) 「外から見たEU、内から見たEU」(静岡県立大学主催)シンポジウムの開催

- ・広域ヨーロッパ研究センター企画運営の国際シンポジウム「内から見たEU、外から見たEU」が、11月23日(火)、静岡グランドホテル中島屋において開催された。リール政治学院(フランス)、ブレーメン経済工科大学(ドイツ)、モスクワ国際関係大学(ロシア)、ボアジチ大学(トルコ)、ブリュッセル自由大学(ベルギー)の研究者をパネリストとして招き(本学からは小窪研究員)、現在のヨーロッパを取り巻く様々な問題について、ヨーロッパ内外の視点から報告と討論がなされた。鈴木雅近理事長(当時)挨拶の後、午前の第1部では、「内から見たEU」を共通テーマに、午後の第2部では「外から見たEU」と題して、それぞれ報告と討論が行われた。午後の第3部では全体討論が行われ、全報告者および会場からの発言を交えて活発な議論が行われた。参加者は学内、一般を合わせて130名を超え、シンポジウムは全体を通じて盛況を呈した。

2) 「プラハのシュタイナー学校」(ドイツ)に関する講演会及び写真展開催

- ・公開シンポジウム「プラハのシュタイナー学校～日本とチェコで学ぶ子どもたち」が、10月21日(木)、静岡県立大学小講堂で行われた。フリー編集者の増田幸弘氏、毎日新聞記者の野上哲氏、チェコビジネスパーク代表ミラン・フバーチェック氏、椋山女学園大学の磯部錦司教授をパネリストとして迎え(司会は本学小谷研究員)、シュタイナー教育の現場や日本とチェコの教育・社会事情が論じられた。会場には多数の学外者を含め80人以上の参加者が集まり、シンポジウムの終わりには活発な質疑応答が展開された。
- ・写真展「プラハのシュタイナー学校」を、一般教育棟カレッジホールで10月14日～21日(木)まで開催し、プラハのシュタイナー学校で学ぶ子どもたちの様子を紹介した。

3) 海外の研究機関との新たな協定締結:

- ・木苗秀直学長、六鹿茂夫国際交流委員長、小窪千早広域ヨーロッパ研究センター研究員が22年9月15日にブリュッセル自由大学(ULB、ベルギー)を訪問し、セルジュ・ジョーマン(Serge Jaumain)同大学副学長、マリアンヌ・ドニー(Marianne Dony)欧州問題研究所長、マリオ・テロ(Mario Telo)同前所長、ジャン=ミッシェル・コフマン(Jean-Michel Kauffmann)薬学部長、ジャン=ルイ・モルトガ(Jean-Louis Moortgat)同大学国際関係課担当職員と大学間協定締結について話し合い、開学25周年を迎える23年度中に同協定を締結することで合意した。現在、開学25周年式典が行われる10月29日に調印式を行う予定で調整を進めている。

4) 講演会・ワークショップ

第1回 平成22年5月27日

講演者: ロルフ・ヴィッテンブローク氏(ザールラント大学)

テーマ: ドイツ、フランス共通歴史教科書 - 背景、特徴そして現在 -

第2回 平成22年7月22日(講演会)

講演者: 森 丈夫氏(福岡大学)

テーマ：イギリス領北米植民地への移住の経験と記憶

5) ウェブサイト (HP) 構築と運営

・広域ヨーロッパ研究センターのウェブサイト (<http://werc.u-shizuoka-ken.ac.jp>) は、平成21年4月に開設され、平成22年3月には大学のサブドメインを取得するとともに、デザインを刷新した。平成22年度は、センターの企画運営した国際シンポジウムおよび講演会の広報をおこない、シンポジウム原稿の一部を登載して、その成果の情報発信につとめた。センター研究員のワーキングペーパーも、わずかではあるが、収録された。

6) 黒海国際シンポジウム報告書の作成

- ・平成 21 年度にイスタンブールにて行った黒海シンポジウムの成果を、英文報告書 Shigeo Mutsushika ed., *Black Sea Region in International Relations: Old Issues, New Trends* (Report of the International Symposium at the Bogazici University, 1-2 October 2009) March 2011. としてまとめた。